

# 平成24年度 税に関する高校生の作文

## 国税局長賞

「税金で分かち合う生きる喜び」  
 広島市立舟入高等学校  
 井元 裕美子



私は今、所属する茶道部での活動を通じ、伝統を受け継ぐことの尊さを実感している。

「二期一会」、「心を尽くしたおもてなし」など、長い年月で培われた茶道の精神によって、美意識や優しさが磨かれ、伝統的な日本の文化として、今に生きているのだと思う。

こうした伝統芸能の多くに、税金が補助金や助成金となって国や地方自治体から交付され、伝承者の養成や全国での公演が行われていることを新聞報道で知った。

その中で議論されていたのは、従来から支出されていた文案への補助金についてであった。

文化行政においても競争原理を導入し、補助金の削減を通じて、効率的な運営を求めていくという考え方が示される一方で、公的機関の保護なくして伝承していくことは困難であるという実情が訴えてあった。

その記事を読んで、私自身、文案は三百年以上の歴史を有し、ユネスコで無形文化遺産に登録されていることを合わせ考えると、どうすれば後世に残せるかという視点で検討する必要があると感じた。同時に、税金の使い道がこのように議論されていることはとても大切なことだと考えさせられた。

記事では、医療費の負担や公共施設の統廃合のことなども取り上げられていた。

確かに、社会の構成員である私達一人ひとりには税の負担を分かち合い、それによって公共サービスを受けることができる。

しかし、財源には限りがあり、公共サービスが増えていく分、増税となるか、他の必要な施策の予算が削減されたり、後の世代の負担となる国債の発行ということにつながる。

このように、公共サービスと税金の関係をみつめていくと、税金を決して浪費してはならないという思いに到る。ましてや、東日本大震災からの復旧・復興には兆単位の予算が必要とされている。今なお多くの方々が避難生活を余儀なくされている被災地に思いをはせると、本当に必要なことに税金を使ってもらいたいと願わずにはいられない。

さて、この夏、ロンドン・オリンピックでの史上最多のメダル獲得に日本中が湧いた。

サッカーのなでしこジャパンや卓球女子など、史上初や何十年ぶりのメダルに感動し、勇気づけられた。選手個人の努力はもとより、国や地域、職場、学校など全ての力の結晶でもある。また、国や地方自治体からの、スポーツ団体等への補助金が有効に機能したともいえると思う。

このように私達は納税という形で社会に還元することで、伝統文化やスポーツなどに形を変えて、生きる喜びや感動を分かち合うことができる。

私達は横に手をつなぎ、社会を支え合って生きている。このことをしっかりと認識して、これからは税金の大切さを深く考えていきたい。

## 広島西税務署長賞

「税について」  
 広島市立舟入高等学校  
 大宮 美悠

「税の大切さ」  
 広島市立舟入高等学校  
 瀬古 みのり

「暮らしを支える税」  
 広島県立広島商業高等学校  
 中村 優里

「義務あつての権利」  
 広島県立広島商業高等学校  
 田村 優子

「税について」  
 学校法人崇徳学園  
 崇徳高等学校  
 荒木 克也